

行事概要

目的

- 広く都民の認知症に対する正しい理解を図り、普及啓発を促進することを目的とする。
- 認知症になっても住み慣れた地域で暮らすことは可能なのか、医療・ケア(介護・地域)は、どこまで認知症の人を支える力になれるのか、両分野の専門家から、それぞれの取組みの最前線について講演。

日時

平成21年9月16日(水曜日) 14時から17時まで

会場

東京都庁第一本庁舎 5階大会議場

内容

- **第1部 基調講演 1 「認知症医療の最前線」**
認知症についての基本的な知識、行動心理症状への対応、さらにアルツハイマー型認知症の治療薬の今後について、認知症を取り巻く最近の動向を医療の立場から講演。
繁田 雅弘 氏 (首都大学東京健康福祉学部学部長)
- **第2部 ビデオ上映・解説 「小規模多機能型ホームにおけるケア」**
平成十八年度に新たに創設されたサービス体系、小規模多機能型ホームについて、利用者の方々の日々の暮らしの様子を映像と解説を交えて説明。
福井 幸成 氏 (株式会社大起エンゼルヘルプ小規模多機能ホーム方南ホーム長)
- **第3部 基調講演 2 「認知症ケアの最前線」**
認知症の人の心を知り、どのような人や場をその人に提供すれば、少しでも安らぎ、自分を保ちながらより良く暮らしていけるのか、認知症ケアについて、様々な地域での実際の取り組みについての講演。
永田 久美子 氏 (認知症介護研究・研修東京センター研究部副部長)

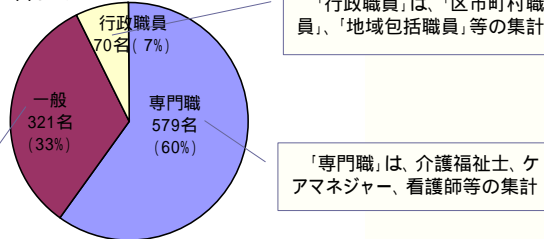
実施結果

参加状況

➢ 申込者数 970名

- 申込受付期間: 7月23日から9月2日まで
- 申込者の属性内訳(下図)

[n=970]



➢ 参加者数 551名

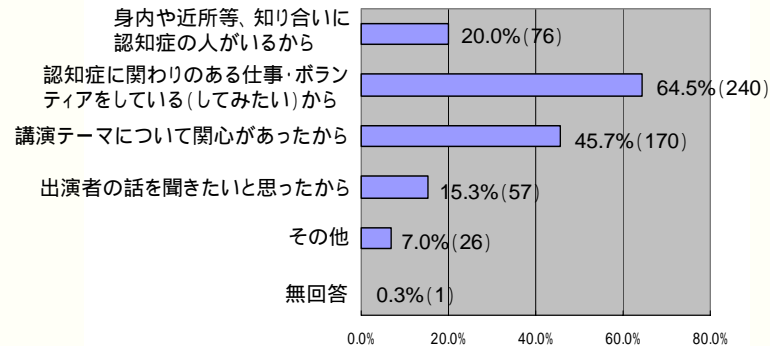
アンケート結果(抜粋)

➢ 回収数 372票

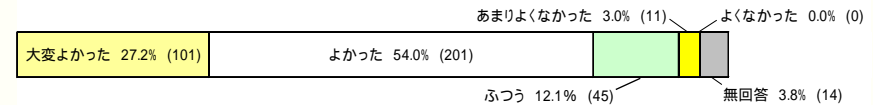
➢ 集計結果

- Q. シンポジウムに参加しようと思った理由はなんですか (MA)

[n=372]



Q. テーマの設定について (SA) [n=372]



➢ 自由回答(抜粋)

医療についての意見

- ・一般的なことはテレビ・新聞で知っているが、このような講演でより深く知識や取組、対応方法などについて知る必要がある。特に四大認知症の区分があることは知ってはいたが、内容のある説明で納得できた。
- ・認知症であるとか何か行動を起こすことは難しいものと考えていたが、対象者の背景を理解して、できることを探していくことが重要だと認識した。また今後の医療の進歩にも期待をしていきたい。
- ・医療面の学習の機会が介護現場では不足しているのので、この点を強化して欲しい。

ケアについての意見

- ・関心を払い続けることの大切さが強く印象に残った。
- ・「声なき声を聞く」という話は、傾聴ボランティアとして現在活動しているため実感ともなった。
- ・気になっていた小規模多機能型ホームの内容がよく理解できた。このようなホームがたくさんできると、地域の人も安心して在宅介護を継続して行けるのでは。
- ・小規模多機能型ホームは利用者が少なく、採算が合わないとか聞くので、メリットが今までよくわからなかったが、本日のような成功例をもっとPRすることで、事業者も積極的に、事業を展開していくのではないかと。

今後知りたいこと

- ・日常生活で取り入れていける具体的な内容についてもっと詳しく聞きたい。
- ・認知症の人と実際に関わっている人達や施設について、もう少し詳しい内容を把握できる講演も希望する。
- ・色々なサービス、施設の具体的な利用現場の様子や費用などについて事例を知りたい。また、医療の検査の特徴など本人、家族にとってプラスマイナス面も合わせて知りたい。
- ・「医療」と「ケア」の二本立てで認知症を考えることが、これからますます重要になると感じるので続編を将来期待する。その時はグループホームや小規模多機能ホーム、特養、地域の実践、ボランティアやNPOの活躍を取り入れたものがいい。

その他

- ・今回のシンポジウムもぜひ参加したい。今回はたまたま、チラシを入手できたので参加できた。次回は更に広報に力を入れて欲しい。
- ・家族が地域で気軽に参加できる、小型(小規模)なシンポジウムが開催されるとよい。
- ・それぞれ時間が足りず、もっと話しを聞きたかった。